

● アケボノシュスラン [曙繻子蘭] ラン科 長尾 キヨ (津軽植物の会)

ラン科の植物は春から夏にかけて圧倒的に多い。秋の気配が感じられる頃に咲くランは珍しいのではないかと。それがアケボノシュスランである。

和名がいい。花の色が早朝（曙）の空の色を
思わせ、葉の样子が織物の一種で光沢のある縹
子にたとえたものである。

おもに落葉樹林下にはえる高さ 10 cm ほどの地生ラン。北海道から九州に分布する。茎は細く基部が地表をはって節から根を出し上部が立ち上がる。葉は 4～5 枚が互生し、長さ 2～4 cm 幅 1～2 cm、楕円形でヘリには波状のしわがある。花期は 9～10 月。花序は直立し茎の上部に微紅色の花を 3～7 個やや偏ってつける。花は径 1 cm ほど。

アケボノシュスランは湿り気のある樹林下で群生することが多いが、今年はどうしたものか大群生に息を吞んでしまった。なんと 100 株

以上の最盛期だったのである。

アケボノシュスランはシュスランの仲間で、ほかにツククサシュスラン・シュスラン・ベニシュスラン・ハチジョウシュスラン・シマシュスランなどある。数十年前、十二湖周辺でベニシュスランを観察できたという情報があったことを思い出した。ベニシュスランについて新青森県植物目録にランクA：分布域が点状であるが、その場所での個体数は割合多い稀産種とある。

果実までは継続観察できないが、ネットワーク梵珠 2024.9.15 の表紙に新岡美樹子さんの細密画にアケボノシュスランの花の拡大（横顔・正面）果実・種子の拡大が掲載されているので是非参考にしてください。新岡さんの細密画はいつも楽しみにしています。



アケボノシュスラン



アケボノシュスラン

生物暦(2024)										5月										🌤️☀️🌧️ : 天気		植物	野鳥	動物	昆虫	は虫類・両生類						
日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
曜	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	
観察できたもの	コマドリ・トラツグミ	カワラヒワ・キクガシラコウモリ	ルイヨウボタン・シュンラン	キクガシラコウモリ・エゾハルゼミ	フデリンドウ・コノハズク・キアゲハ	トラツグミ・アオゲラ・アカゲラ	ウワミズザクラ・オオルリ・サル	ヤマドリ・キジバト	ヤマグワ・ミズナラ・アオバト	ニョイスミレ・スジグロシロチョウ	コウライテンナンショウ・ベニシジミ	ギンリョウソウ・ミヤマカラスアゲハ	ホウチャクソウ・シジュウカラ	アナグマ・キクガシラコウモリ	オオバキスミレ・ニリンソウ	サル・テン・アオダイショウ	ノダフジ・トチノキ	ツクバネソウ・マヒワ・ニホンカワトンボ	ジンヨウイチヤクソウ・モリアオガル	ギンリョウソウ・ウスバシロチョウ	オドリコソウ・アオバト	オオハナウド・モズ・キジバト	キセキレイ・トラツグミ	ヤグルマソウ・アカハライモリ	コケイラン・ノダフジ・カモシカ	ギンリョウソウ・キンラン・ヤマカガシ	ツルアジサイ・キリ・ウワバミソウ	サワフタギ・キセキレイ・ジムグリ	キセキレイ・サル	スジグロシロチョウ・コムスジ	ウマノアシガタ・ムラサキサギゴケ	ウマノアシガタ・ムラサキサギゴケ
	天	☀️	☀️	☀️	☀️	☁️	☔️	☔️	☁️	☀️	☀️	☀️	☔️	☀️	☀️	☀️	☔️	☀️	☀️	☁️	☁️	☀️	☀️	☁️	☀️	☀️	☔️	☁️	☁️	☁️	☁️	

● ヤママユ（ヤママユガ科）鳴海 富美子（津軽昆虫同好会）

ヤママユは、夜行性で黄土色をした、本州にいるガの中では最大で、広葉樹林に生息している。日本在来の代表的な野蚕で（天蚕）とも言う。クスサンに似るが、翅に沿って直線的な線があることで区別できる。

年に一度の発生で卵で越冬し、5月頃に孵化した幼虫はブナ科植物等を食べて育つ。終齢になると体の周りに糸を出し、葉を引き寄せて蛹になるための繭を作る。繭は薄いクリーム色の楕円形をしていて、一部の地域ではこの繭から天然の糸を採る。この天然糸から織った天然布は淡い緑色をしていて美しいが、飼育が難しいこともあって非常に高価である。

成虫は梵珠では9月上旬にセンター前に飛んできた2頭のオスがいたが、殆ど飛べない様子で翅をバタバタさせていた。成虫は口が退化して何も食べず5日程しか生きられず、その間に交尾・産卵をする。メスのお腹には卵がいっぱい詰まっていて太くなっている。また、触角はオスは羽毛状、メスは糸状である。夜行性であるヤママユガ科のメスは、オスを引き寄せるフ

フェロモンを出してオスを呼ぶ。オスはこのフェロモンを触角で感知してメスに近づくため大きくなっているようだ。

以前メスのクスサンを入れた飼育箱に、いつの間にかオスが来て飼育箱の前でバタバタ飛んでいたことがあった。何処から飛んできたかはわからないが、かなり遠くからフェロモンに引き寄せられてきたようだ。後日メスは産卵したが、もちろん未受精卵で孵化することはなかった。これはクスサンであるが、ヤママユも同じヤママユガ科であることから、同じような行動をとるのではないかと思われる。

晩秋や早春に雑木林を歩いていると、薄いクリーム色をしたヤママユの繭が小枝等に付いているのが見つかるかも知れない。成虫が羽化した後の空の繭であるが。



まゆ



成虫

生物暦(2024)										6 月		🌤️🌧️☀️ : 天気		植物	野鳥	動物	昆虫	は虫類・両生類												
日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
曜	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
観察できたもの	ウラジロヨウラク・ミヤマカラスアゲハ	コケイラン・マイヅルソウ・コルリ	アカシヨウビン・モリアオガエル	オドリコソウ・マヒワ・カモシカ	ジガバチソウ・アカゲラ・カケス	ノビネチドリ・ウスバシロチヨウ	サイハイラン・リス・ヒメクロサナエ	ギンリヨウソウ・カワガラス	ノウサギ・ギンヤンマ・マムシ	キジバト・リス	フジミドリシジミ・ヤマカガシ	ミヤマカラスアゲハ・アオバト	アオバト・キジバト・カナヘビ	オドリコソウ・ミソサザイ	カケス・オオルリ・シジユウカラ	アオバト・コムシジ・クロヒカゲ	ヤマボウシ・オオミズアオ	オニシモツケ・コチャバナセセリ	カケス・エゾハルゼミ	ウリノキ・ミヤマカラスアゲハ	キビタキ・カモシカ・シオヤトンボ	ウメガサソウ・キビタキ・サル	アキグミ・キバシリ・カナヘビ	クリ・ウグイス・キセキレイ	ツルアリドウシ・タヌキ	オニノヤガラ・チヨウゲンボウ	トチバニンジン・クロヒカゲ	イチヤクソウ・キビタキ	ウグイス・メスアカミドリシジミ	サル・アカシジミ・クジャクチヨウ
	天	☁️	☁️	☔️	☀️	☁️	☁️	☀️	☀️	☔️	☀️	☀️	☀️	☀️	☀️	☁️	☀️	☀️	☀️	☀️	☀️	☀️	☀️	☔️	☀️	☔️	☀️	☀️	☀️	☀️